

U003-02

会場:ファンクショナルルームA

時間: 5月28日09:15-09:30

## PANSYの目指す大気科学

### Atmospheric Sciences using the PANSY Radar

佐藤 薫<sup>1\*</sup>

Kaoru Sato<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>東大院理/極地研

<sup>1</sup>U Tokyo/ NIPR

南極昭和基地は、極地研を中心として、気象庁や情報通信研究機構によるモニタリング観測や、大学等各研究機関による研究観測が行われている世界的にも有数の総合大気観測拠点である。南極大気の観測は次の2点において重要である。すなわち、第1に、人間活動から隔絶された地域にあるため、地球気候変化の微妙なシグナルを検出するのが容易であること、第2に、カタバ風やオゾンホール、極成層圏雲・極中間圏雲などの固有の興味深い現象が存在し、地球気候の強い変化が現れることである。とくに中層大気は対流圏と電離圏を結ぶ重要な大気領域と位置付けられる。しかしながら、南極大気の観測は、その苛酷な環境から、中低緯度域に比べて大幅に遅れており、地球大気全体の運動量収支や南北鉛直結合を定量的に理解するのに限界があった。このような状況を打破すべく、今年大型大気レーダーの南極昭和基地における建設が開始され、その観測は間もなく始まる予定である。本講演では、対流圏から電離圏まで高精度、高分解能で連続観測可能な南極昭和基地大型大気レーダー（PANSYレーダー）を用いた大気研究の可能性を議論する。

キーワード:南極大気,大型大気レーダー,カタバ風,大気重力波,オゾンホール,極中間圏雲

Keywords: Antarctic Atmosphere, MST/IS radar, katabatic winds, atmospheric gravity waves, Antarctic ozone hole, Polar mesospheric clouds